

くにさき少年少女
発明クラブ
事務局発行

発明クラブ通信



第4回発明クラブ講座(11/21)

ISTS地域イベント 宇宙教室に参加

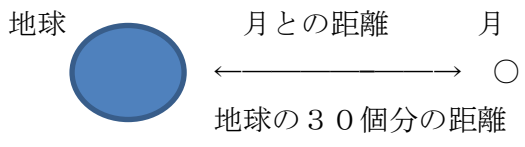
テーマ ～月に行こう!～

講師の高山久信先生(左)中島紳一郎先生(右)



今回は、県主催の「宇宙教室」講座に参加しました。午前中は発明クラブ会員を中心に開かれました(午後は一般の会員中心)。

講座の前半は、月と人類のかかわりについて話を聞きました。まず地球と月との距離や大きさは、どれくらいだと思いますか?



- 月の直径～約3500km(地球の直径の4分の1)
- 地球と月の距離～約38万km
- 宇宙飛行士が月から持ち帰った石の重さ～387kg(6回月に行っている合計)

月は人類が降り立ったことのある、ただ一つの天体です。一番近くにあるのに謎がたくさんあるのが月です。さらに月探査「セレーネ計画」は、2007年に実施された日本の月探査プロジェクト計画で、アポロ計画以来、世界最大規模と言われる月探査です。いろんなデータを集め世界で初めてくわしい月の地形図を完成させました。それによると、月の地形は

- 月には、1万mほどの山がある。
- 低い場所は、9000mほどの深さがある。

地球と似ているので、地球から飛び出してできたのが月ではないとも言われています。アメリカ宇宙航空局(NASA)では、2028年には月に日本人の飛行士を送り込み、その後月に基地をつくる計画もあります。

日本のJAXA(宇宙航空研究開発機構)は、2035年までに月に工場を作ると発表しました。そのためにはもっと詳しく月の様子を知らなくてはなりません。しかし、

■月に行くには1kgあたり、1億円かかる。

そのため日本の会社が、月面探査(たんさ)車の「やおき」を開発しています。重さは0.6kgと軽く、15cmほどの大きさです。講座の後半は、この「やおき」の操縦体験もおこないました。砂の上を、自由に動き回る姿に会員は驚いていました。クラブ員の中から、将来宇宙で働く人が出てくるかもしれませんね。



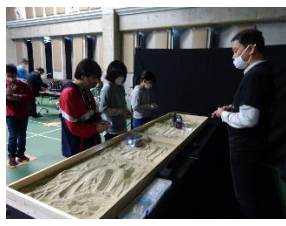
探査車「やおき」



操作前に手指の消毒



三河市長と一緒に体験



砂の上を自由に回転

(1月講座の連絡)

- 日時 1月16日(土)9:30開始～
- 場所 弥生のムラ(歴史体験学習館)
- 内容 古代のものづくり
- 持ち物 発明作品 他はいつも通り

発明くふう作品にチャレンジ

世界に1つだけの発明を考えよう！

いままでの作品をいくつか紹介します。^{さんこう}参考にして、発明くふう作品を自分で作ってみましょう。冬休み中に完成させて1月16日（土）の講座の時に持ってきてください。



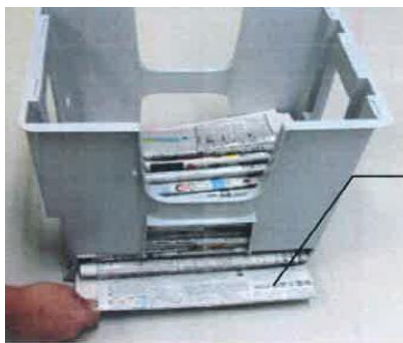
くるくるゴミとり機

この作品は、モーターのさきにごみとり用のクリーナーをつけ、回転しながらすみずみをきれいにできる発明品です



合体せっけん

石けんをくりぬいて、その中にそれまで使っていて小さくなった石けんをいれれば、合体して使えます。



下からとれる新聞ストッカー

新聞入れの底にあなを開けると、古い新聞からぬきとることができます。（高校生の作品）



くつべらつきくつそろえぼう

くつべらの反対側にふたまたをとりつけると、こしを曲げずにくつもそろえることができます。

※まねをされてこまる人は、以前も話しましたが作品の特許申請^{とっきょしんせい}を自分で行ってください。クラブでは申請の手続きはおこないません。